かわにし

精華町立川西小学校　検索

めざす児童像
よく学び　心豊かで　元気な子
精華町立川西小学校　学校だより
令和８年１月８日　１月号

令和8年　まずは元気なあいさつから！

校長　竹花　真治

穏やかな陽春のもと、新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

14日間の冬休みを経て、子ども達、元気に登校してきました。朝、正門で子ども達と交わす「あいさつ」の時間は、本当に楽しいです。必ず目を見て先に挨拶する子もいたり、登校班全員が元気な声を出す班もあったり、今日は声を出さなかったなぁ…どうしたんだろう…、と思うこともあったりと、朝の時間に、子ども達はいろんな姿を見せてくれます。

やっぱり、元気に目を見て挨拶し合うことができると気持ちいいものです。川西小の全員が、目を見て先に挨拶できる習慣を身に付けてもらいたいものです。そのためにも、各家庭・地域における大人の役割は大きいものだと思います。どうぞ、朝、町で子ども達に出会ったら、元気なあいさつ交わしてください。ご協力、よろしくお願いします。

3学期は、約10週間、登校日数は50日ほどしかありません。今日の始業式、子ども達には、しっかり自分を見つめ、次の学年までに克服すべきことや、さらに伸ばすべきことを目標にするように、話をしました。お家でも、お子さんがどのような目標を掲げたのか聞いていただき、それに向けての支援をよろしくお願いいたします。「頑張らせて誉める！」この、好循環で子ども達を伸ばしていきましょう。

1月中旬には、学校評価アンケートをさせていただきます。さくら連絡網にアンケートを貼り付けますので、回答にご協力ください。改善点への示唆もいただきたいですが、評価点等（学校全体・職員）もありましたら、記入いただけたらありがたいです。（誉めていただけると、私たちも励みになります）

令和8年のスタート、まずは元気なあいさつで、学校全体を活気づけて、今年度最終の3学期、435人の子ども達と共に、職員一同、力を合わせて頑張っていきたいと思います。

様々な出来事を、他人事とせず、自分事として…

保護者・地域の皆様は、年末年始、どのように過ごされたことでしょうか？　私は、スポーツが好きなので、年末年始は、サッカー・ラグビー・駅伝等のテレビ観戦が、毎年の定番です。駅伝の中でも、箱根駅伝は、毎年ほぼ欠かさず見ているのですが、見た後は、感化されて、直後にジョギングがしたくなります。（今年も走りました！）

今年の箱根駅伝も、すごい展開がありましたが、5年ぐらい前に行われた大会は、すごく印象に残っています。今回の往路での逆転劇と似ていますが、レースは最終10区に大きな展開があり、2位のチームが大逆転優勝となったレース、記憶に残っておられる方も多いかと思います。

1位チームが9区からタスキを受け継いだ時には3分以上もの差があり、その大学の初優勝間違いなしと思われましたが、2位チームが徐々に差を縮め、ゴール手前2kmで逆転！　そのまま優勝となりました。逆転劇が華々しく報道される中、チームがずっと1位を守ってきて、最終区で逆転された選手の気持ちを考えた時…、その時、どんな気持ちでいるのだろう…、とテレビやネットで報道される度に、この選手の心の内を察していました。

スポーツの世界は、勝ち負けがつきものです。今までも様々なスポーツで、その勝敗から、数々のドラマ（喜び・悲しみ）が生まれてきました。

私も、応援しているチームが負けて悔しく思ったことや、自分のミスでチームが負けたり、迷惑をかけたりしたことなど何度もあります。その時、強烈に悔しがったり、反省したり…。　なかなか立ち直れなかったこともありましたが、このレースでの逆転劇は、私の小さな経験とは違い、テレビ中継や報道もあり、あまりに反響が大きくて、逆転された選手のことを本当に心配しました。選手はレース後、SNSに「ごめんなさい」と謝罪の言葉とともに、「全部受け止めて来年強くなって戻ってきます」とコメント。　前向きな言葉を発してくれてホッとした覚えがあります。（謝罪は必要ないと思います）　その後、彼には、全国から温かい激励の言葉が多数届いたそうです。翌年は選手としての出場はなかったですが、チームをサポートし、現在は社会人となり、市民ランナーとして競技を続けているそうです。この箱根での経験を、「人生の糧」にすることができたのでしょう。

ともすれば、一生心の傷となりそうな出来事から、次に向かうことができたのかは、本人の力もさることながら、周囲からの「言葉・支援」があってのことだと思います。

失意のどん底にいる彼に、周りはどんな言葉をかけたのでしょうか？　その言葉には、「一人一人を大切にする気持ち」「相手の立場に立つ」「思いやり」「仲間を思う心」など、これらの温かな要素が含まれていたことでしょう。

子ども達の学校生活にも「勝ち負け」の場面はたくさんあります。そんな時に「適切な言葉かけ」ができるように、川西の子ども達を育てていきたいと思うばかりです。

関東の大学生の駅伝からでも、子ども達や私たちが学べることはたくさんあります。子ども達が世の中で起こっている様々なことを「他人事（ひとごと）」とせず、「自分事」として捉えられるよう、周囲のことに関心を持たせたいものです。

そして、その出来事の問題点や、人の心の痛み・悲しみに気づき、どうすればよいか考え、さらには行動することができる…、そんな子ども達を、共に育てていきましょう。